

～子どもたちに豊かな体験を！～

放課後子ども教室 よつばクラブ 【大竹市】

教室の概要

○ 教室開設の経緯

放課後子ども教室「よつばクラブ」は、平成19年度より、「放課後子ども教室」として、活動を行っている。一時、教室を休止していた期間もあったが、「もう一度、子どもたちに豊かな体験活動を提供したい。」というコーディネーター等スタッフの方々の思いから、平成22年度に再度、開設し、現在に至っている。

【開始年度】平成19年度	【実施校区】大竹市内の全小学校区
【開催場所】総合市民会館、公園 他	【コーディネーター人数】1人 (※他の教室と兼任)
【開催日・開催時間】原則として、毎週火曜日 16:30～18:00 (※土・日曜日、夏季休業中も有り)	
【年間開催日数】30日	【安全管理員人数】1人
【参加学年・平均参加人数】小学校3～6年生 10人	【学習アドバイザー人数】2人

活動内容

○ 年間スケジュール (平成24年度)

月	4月	5月	6月	7月
内容	(教室開始準備) (教室参加募集)	オリエンテーション バケツ稲作り	さつまいも植え 稲の観察 ゴーヤのネット作り プールの中の生物調査 バルーンアート	ミクロの世界をのぞいてみよう さつまいもや稲の観察 釣りと観察 登山 河口の生物観察
月	8月	9月	10月	11月
内容	さつまいもや稲の観察 空気砲	さつまいもや稲の観察 ゲーム遊び	きらきらBOXを作ろう アジを調理してみよう バケツ稲の稲刈り どんぐりトトロ作り	もみすり、野菜の収穫 野菜の調理
月	12月	1月	2月	3月
内容	ネイチャーゲーム しめ縄作り ウサギふれあい体験 よつばクラブ活動紹介の掲示板を作ろう	ダイダラシー現象体験 ダンス	工作(輪ゴム鉄砲・ ぶんぶんゴマ・スライム・リモコンカー)	工作(ペットボトル ロケット) 振り返り、修了式

○ 特徴的な活動プログラム

農業体験

地元のJAに協力いただき、年間を通じて、米作り・野菜作りを教えてもらっている。

米作りは田んぼで行うのではなく、バケツに苗を植えて、自分だけの米を育てるという取り組みを行っている。また、収穫した米や野菜を使った調理活動も楽しんでいる。

工作活動

子どもたちの身近にある材料を活用し、楽しく遊べるもの作りを行っている。今年度は輪ゴム鉄砲、ぶんぶんゴマ、リモコンカー、ペットボトルロケット作りなどを行った。

生き物のふれ合い活動

生き物と直接ふれ合う活動を通して、命について考え、命を大切にする心を育てている。今年度は水中生物や干潟に生息する生物の観察、魚釣り、また、魚を自分で調理する活動、ウサギとふれあう活動などを実施した。



～海の生物観察～



～魚をさばく～

運営上の工夫

- 子どもの主体性が発揮できるプログラムの企画
子どもたちの主体性が発揮できるよう、参加、体験を重視したプログラム作りを目指している。プログラムについては、コーディネーター、学習アドバイザー、安全管理員が、随時、アイデアを出し合い、相談している。
- 安全管理面の工夫
野外での活動の際は、普段の活動より、スタッフを増員し、安全管理に努めている。
- 保護者・地域住民への事業の周知
保護者に教室での活動をもっと知ってもらうために、「よつばクラブ」の活動をまとめた掲示板を作成し、総合市民会館に掲示している。

事業を実施して

【参加者の声】

- (児童の声) 工作、実験、農業など、色々な体験が出来て楽しかった。
- (保護者の声) 普段体験させることが出来ない内容で、子どもにとっていい経験になったと思う。
- (スタッフの声) 昔と比べ、子どもが日常生活の中で色々なことを体験する機会が減ってしまった。ここでの体験を通じて、子どもたちの興味・関心が広がっていくことを望んでいる。

【成果と課題】

- ・山や海などの大自然また生き物たちと、直接ふれ合うことで、子どもたちの自然の見方や感じ方が広がり、多くのことを学習することができた。
- ・学習アドバイザーの熱心な指導により、子どもたちの集中力が高まった。
- ・今後、継続した取組にしていくために、地域の方々に事業について周知を更に図る。また、放課後子ども教室を支援していただく新たな人材の発掘、育成が必要である。

